

人生協会会員

南山大学教職センター 大塚 弥生

南山短期大学で、新任2年目の先生と、学生の私は出会いました。その頃の先生はタバコを吸っておられて、ある時「タバコとコーヒー、止めるならどっちですか」と聞いたことがありました。特に返事を期待したわけでもない、冗談交じりのたわいもない会話の一コマです。しばらくして、「やよ（当時の友達と同じように、こんなふうと呼んでくださっていました）タバコかな」とおっしゃったことに、とても驚いたことを今でもよく覚えています。私自身が忘れていたような、聞き流されても何の違和感もない問いかけの言葉に対して、まともに考えて答えてくれたのだという驚きでした。

それから45年、この間の思い出をたどることは、私が生きてきたこれまでの道筋をふりかえることになります。短大時代は、お芝居をやっていた私の公演をよく観に来てくださいました。それから、大学に編入することを励まし、支えてくださったこと。大学院へ進むかどうか迷っていた時、名古屋大学でのアルバイトを紹介して下さり、私の居場所を作ってくださいましたこと。一緒にワークショップ合宿で初めての芝居づくりをしたこと。聖霊短期大学に就職が決まっていたから、聖霊でも南山でも、授業でチームティーチングを一緒にしてきたこと。聖霊で学生と合宿をするときには、バーベキューの仕込みをもって応援に来てくださったこと。大学の授業以外でも、様々な研修や研究会と一緒に作ってきたこと。学生と教員という出会いから、一緒に授業をし、ともに何かを作り、仕事を超えて意見を交換したり、相談したり、時には教え合うようなつながりを持たせていただいたと思っています。津村先生からいただいたものは計り知れず、これらすべての体験が私の人生の節目となり、今の私があります。

ナラティヴ・セラピーの中に、「人生協会会員」という言葉があります。自分のアイデンティティの形成に大きく影響し、自分を語るときに外すことのできない、自分と深くつながる人々のことを言います。私だけではなく、他の多くの人たちにとっても、津村先生はその人たちの人生協会会員となっておられることなのでしょう。直接会って話がしたい。話を聞いてもらいたい。ああ、そうか、津村先生はもういないのだと気づかされる日々が続いています。でも、問いかければ、声が聞こえます。「そうか、そうやなあ、やよ」「どう思う？やよ」きっとこんなふうに戻事をしてくださるだろうという声を聴くことができます。津村先生は間違いなく、これまでも、これからも、私の人生協会会員なのですから。